



SSKP

はばただより

vol.136

社会福祉法人おおぞら会

野ざきの家 お花見会



さくらと青空と笑顔と…

春の心地よい天候の下「野ざきの家」恒例のお花見を開催しました。ここ数年、開花予想が当たらず盛大な桜の下でのお花見ができていなかったのですが、今年は満開～雪のように舞い散る桜の中お花見をすることができました。

今年は「はばたけ」の2階から目の前に桜！という特等席で鑑賞でき、皆さんこの笑顔です。ボランティアの方にも協力してもらい、和やかなよい時間を過ごすことができました。



小規模多機能型居宅介護

野ざきの家



昨年度、野ざきの家始まって以来利用者さんが多い一年となりました。その人の思いやできることを考え、柔軟にサービス内容の変更を行いながら「小規模多機能型居宅介護」という形態を活かし、「主役は利用者さん」を意識し私たちは環境の一部となり支援を展開してきました。

試行錯誤しながらこうして形になってきた中で、昨年度末にあらためて事業所理念（大切にしていること）を言葉にする作業を行いました。同じ方向を向いて支援する、想いを共有するために事業所理念は必要なのですが、誰かが一人で作ったものでは理解や共感は得られません。そこで、職員会議の中で全員が支援に対する思いや働く意義、大切にしていることなどを箇条書きにして、職員みんなの想いをつなぎ合わせ3つの大切にしていることが完成しました。この理念は職員の「立ち返る場所」となり、職員一人一人が自信を持って支援するための根拠となります。また、新しい職員が入ってきた際もこれを作ったときの経緯を伝えて、想いを一緒にしていけたらと思います。さらに、地域のみなさまに野ざきの家の事業を知っていただくきっかけとしても、この理念を発信していきたいと思っています。

野ざきの家の「大切にしていること」

～理念～

「観て 聴いて 感じる」

年齢を重ねると人によっては自分の想いを伝えることが難しくなることがあります。私たちは先回りするのではなく、表情や会話の中からも相手が伝えたいことを汲み取ることができます。その人が安心して暮らしていけるような側面的な支援を大切にしていきます。

「いつまでも自分らしく、ありのまま」

その人らしい過ごし方、その時間は誰もが主役です。私たちも共に自由な発想で楽しみを共有し、誰もが人の役に立っていると感じられるような活動を通して、ひとりひとりに光が当たるよう心掛けていきます。



「地域で暮らしている、私は一人じゃない」

人それぞれ生活している環境は違い、一つの変化によって生活しづらくなったり望む生活が難しくなったりします。その中で私たちも地域の環境の一部として、その人らしい生活が送れるよう心の拠り所となり、皆が笑顔になれる場所、地域作りを目指していきます。

文章のプロが作ったものではないので、文章としては拙いかもしれませんが、職員が心を一つにして作った大切なものです。これを読んで我々が大切にしていることを感じてくださったら嬉しいです。

(管理者 齋藤 貴彦)

サポートネットあすは

《移動支援・居宅介護事業》



「サポートネットあすは」は、外出時の支援を行うガイドヘルパーを派遣しています。

ある時、利用者ご本人から「ヘルパーのAさんと一緒に野球の試合を観に行きたいです。」とお電話がありました。お話を伺ってみると、利用者の方が好きなチームではなく、ヘルパーのAさんが好きなチームの試合を観に行きたいとのこと。また、別のご利用者の方から「カラオケに行って、ヘルパーさんにも歌って欲しい」と依頼が入ったこともありました（カラオケに関しては、ヘルパーには聴き役に徹して欲しいという方もいるので、気をつけなくてははいけません）。普段、利用者の方が楽しめるようにと頭を悩ませることも多いのですが、同じように「ヘルパーも楽しんで欲しい」という、利用者の方の思いや気づかいを感じました。

言葉でのコミュニケーションが難しい利用者の方も同じで、何度も一緒に外出していると、表情や行動からヘルパーを気にかけてくれていると感ずることがあります。とても心が温くなる瞬間です。支援を行う上で注意しなくてはいけないことの一つに「一方的になること」がありますが、前述のエピソードは、一方的にならず相手のことを気づかう大切さを改めて実感させてくれました。

「サポートネットあすは」は、利用者・ヘルパー・外出先で出会う人々・地域の方…と沢山の方が関わり成り立っている事業所です。これからも、それぞれの立場や思いを大切にしながら、地域に貢献できる事業所を目指していきたくて考えています。

(管理者 鷹鷲 綾)

※4月より管理者の鷹鷲が産休育休を経て復職いたしました。今後ともよろしくお願いいたします※

あすは Kids

《放課後等デイサービス》

桜があつというまに咲き、気持ちの良い春がやってきました。穏やかな気候が続いてほしいものですが、今年はどんな一年になるでしょうか。

春といえば出会いと別れの季節です。毎年のことですが、あすは Kids では高校3年生3名が卒業し、新たに2名のお友達が加わりました。新しく入った子も今までいた子も、学年や学校が変わったことをその子なりに色々と感じ取っているようです。引き締まった表情の子、マイペースな子、緊張や不安な表情の子など色々です。あすは Kids では、そんな子どもたちの心に寄り添いながら、みんなに安心してゆったりとびのびと過ごしてもらいたいと思っています。



今年度の活動では“地域の中であそぶ”ということを取り入れていきたいと考えています。近隣で開催されるイベントに参加したり、近所の公園のガーデンサポーターの方々と協力して楽しみながら自然と触れ合う機会を作ったりということを計画中です。私たち子どもたちも地域の中の一員という思いで、お互いに顔の見える関係づくりを進めていきたいと思っています。

(支援員 梅田亜希)



工房 時 【就労移行・就労継続B型】

三鷹まちゼミ

「製麺体験と試食会～うどんのイロハ～」を開催しました！

新緑が目優しく、さわやかな風が吹き抜ける季節になりました。

さて、工房時は2月に三鷹まちゼミに参加しました。三鷹まちゼミとは三鷹商工会が主催し、市内全域で行われたイベントです。もしかしたら皆さんのなかに市内で“三鷹まちゼミ”ののぼりを見た方がいるかも知れません。イベントの内容は商工会に加盟するお店や企業の人が講師となって、専門店ならではの知識や情報、コツを無料で教えてもらえる、街の中の少人数のゼミナールです。地域の方々と交流し、お店のことや商品のことを知ってもらい、参加したお店はもちろん、地域を活性化することが目的のイベントです。参加したお店は、カフェ、ワイン食堂、化粧品店、和菓子店、印刷工場、精肉店、蕎麦店、サンドイッチ店、漢方薬店、美容院、メガネ店、陶芸工房、結婚相談所、指圧治療院…様々なお店や企業が特徴と強みを活かし地域に方々に講座を聞いてもらい、楽しい体験をしてもらうのです。

工房時は「製麺体験と試食会 うどんのイロハ～」という講座を2回開催することにしました。受付を開始すると一日7名の定員はあっという間に埋まってしまいました。商工会が市内全域に配布したチラシの効果もあったと思いますが、うどん作りへの地域の皆さんの関心の高さに驚きました。古くから多摩地域から埼玉県入間郡にまたがる武蔵野台地域では気候や地形・地質などの条件から、水田耕作より畑作が盛んな地域であり、以前は小麦の生産が多かったのでうどんを打つ習慣があり、とくに正月や彼岸、盆、冠婚葬祭などでうどんをふるまう習慣があったそうです。そんな話に思いをはせながら、講座を開催しました。

当日はお父さん、お母さん、子供たちと、地域の方々に参加していただきました。まずは製麺体験です。挨拶と工房時の紹介から始まり、製麺部の所員が講師になって、ゼミが始まりました。材料の説明、うどんの練り方、製麺機の使い方・・・こしのある麺がどのようにして出来ていくかを、興味津々の表情で見て聞いて、体験していただきました。麺が出来上がると、大人も子供も、皆さん満足感あふれる表情をしていました。その後は、おもむく食堂での試食会です。初対面の方もいる中で、うどんとおもむく食堂特製おむすびを食べていただきました。感想を聞くと「とても楽しかった」「麺づくりの知識が深まった」「楽しく、おいしい体験が出来た」など、皆さん充実した時間を過ごされたようです。



うどんを通して工房時の所員・職員と地域の方々。地域の方々どうし、良い交流になりました。地域で知らない人たちがどうしが美味しいものをいっしょに食べ話しをし、交流する機会をつくれたこと、喜んでいただけたこと、うれしく感じています。また所員にとっては、自分たちの仕事を地域の方々に教えるという貴重な体験が出来ました。仕事に自信と誇りを持つことにつながったのでは、と思います。

(管理者 立野信行)

アクティビティセンター はばたけ

【生活介護事業】

昨年、特別支援学校の高等部を卒業し、はばたけにきた夏音さん。体を揺らしながら何かを思い浮かべてニコニコ、ふらっと外に出たくなったり、気になることからちょっと抜け出せなくなったり…。それでも切り替わるとさっきまでの混乱がなかったかのように「ふふ～ん」と作業に戻ったり…。ちょっとずつ距離を縮め、そんな夏音さんの思いに近づくべく職員も日々奮闘中です。みんなが集まる場面などが苦手な夏音さんですが、「はばたけ」という場だからこそ仲間っていいな、人とのつながりって安心だなという感覚を得てほしいというのが私たちの願いです。



作業もみんなと協力すると早いね

夏音さんは髪の毛が長く、お手入れするのが大好き。時に時間がかかりすぎて困ってしまうこともあるのですが、ブラッシングやシャンプーも入念に、髪型も毎日ツインテールやおだんごヘアとお母さんにかわいくしてもらって通所してきます。そんな夏音さんの「好き」を活かせないかなと思っていたある日の昼休み。同じグループのよしえさんの髪を結い直そうとしたとき、いつものようにニコニコ歩いていたので、「夏音さん！よしえさんの髪を結ってくれないかな？」と頼むと、よしえさんをチラッと見てずっと近づき、すすっと三つ編みを結い始めたのでした。「わあ！すごい」周りが注目する中、我関せず淡々と編み込み、終わるとずっとまた行ってしまいました。嫌だったかな？やらされてる感じだったかな？とこちらは思いを巡らせます。しかし、そのあとのこと…。しばらく庭を歩いていたかと思うと、ふとよしえさんのところに戻り髪の毛を触り、またずっと立ち去ったのです。「やっぱり自分がやった実感は持ってたんだな」…互いに言葉でのコミュニケーションが難しい二人の距離が縮まったという感触を得られた一瞬の行動でした。

また違う日の昼休みに髪結いをしてもらった日の帰り際。早退するよしえさんを「またねー」「さようなら」「あしたねー」と大きな声で見送ったのです。職員からの促しがあったわけでもなく、立ち止まって自ら仲間との関わりを求めた夏音さんの“キラッとした一瞬”…でした。

毎日そばにいる仲間には少しずつ自分からアプローチするようになり、グループが安心できる居場所になってきたけれど、それでも帰りの会はみんなと一緒にというのが難しかった夏音さん。でも先に



部屋を出る夏音さんにグループの仲間はいつも「またねー」と見送ってくれていました。きっとその言葉を聞いていたのかな。ほんとはその時に自分も言いたかったのかもな…。

想いを馳せるこちらをよそに、いつものように涼しい顔で帰っていった夏音さんでしたが、何か少しずつ変化しているのかなと感じた一年の節目、また新たに今年度もたくさんのキラッとした瞬間を目撃したいと思います。

(管理者 入倉 暁子)

つなぐなかまの家

(つなぐなかまの家／さくらハイツ)

共同生活援助

地震や異常気象による災害のニュースが多い昨今、入居者からは時どき「夜中や明け方の職員がいない時間帯に大きな地震があったときはどうすれば良いの？」という質問を受けることがあります。(さくらハイツは泊まりの職員を配置していない、より一人暮らしに近いアパート形式のグループホームです)

災害ともなれば皆で声を掛け合い協力し合って避難できれば良いのですが、状況判断やそれに伴うコミュニケーション、身体機能などそれぞれに持つ不安と普段と違う状況で、どういう工夫を準備しておくかというのは大きな課題です。



さあ、防災探検に出発だ！

そんなさくらハイツでは、29年度春の避難訓練を3月に実施しました。防災訓練というと、これまでは地域の訓練に参加することと、自主避難訓練では消防署員に来てもらい初期消火の練習や防災のアドバイスをもらう形で行なっていましたが、今回の避難訓練では入居者Tさんと一緒にアイデアを出し合い「実際に大地震が起こったらどこへ避難する？」をテーマにして、近辺にいくつかある避難所巡りをすることにしました。

普段見慣れている景色も注意してみると、公園や広場には広域避難場所の看板が立っていたり、アパート近辺には必ず消火器が設置されていたりと、発見の多い一日となりました。またTさんは日頃から防災の意識が高く、避難するときの持ち物を自主的に調べてくれていたので、それをもとにさくらハイツオリジナルの防災のしおりを作成し、入居者に配布することができました。

いつもは物静かで、ご自分のペースを大切に守っているTさんですが、あるとき「皆でまとまって避難した方が良いと思うんです！」「Iさんは足が悪いから、僕と一緒に避難所まで連れて行きます！」と、語ってくれたことがありました。周りのことをしっかりと考え、そして動いてくれようとしているTさんを力強く思い、同時に人としての成長を感じ驚きました。

その人が持っている力を存分に引き出す。そして人や社会につなげていくことが支援者に求められている大切な役割なのだと、改めて実感しました。

(管理者 南川 雄造)



消火器の設置場所を確認！

おおぞら会後援会ニュース

総会のご案内

例年にまして、夏の暑さが早くも近づいているようです。皆様いかがお過ごしでしょうか？さて、当後援会は6月2日に総会を開催いたします。法人20周年の記念事業の開催を控え、後援会としても大きな支えとなるように一年を歩んでまいります。皆様のお力添えにより、法人運営の大きな支えが生まれます。新規事業や既存施設の修繕、人員の確保等、法人運営における今後の見通しの中で、後援会の存在もさらに大きくなりますので、今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。また、新年度になりましたので、入会・更新のお手続きも併せてお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会 会長 吉野 壽夫

おおぞら会後援会 総会

開催: 6月2日(土)
総会 15:00～／親睦会 16:00～

会場: アクティビティセンターはばたけ
(直接会場にお越しください。駐車場はございません)



★後援会新規ご入会・ご更新

平成29年度分 12/1～3/31 集約分 (順不同・敬称略)

個人25名、団体1社よりご入会、ご更新のお手続きをいただきました。
ありがとうございました。

★後援会へ寄附 個人3名、団体1社よりご寄附をいただきました。ありがとうございました。

★後援会経由 法人・各事業所へ寄附

個人2名、団体3社よりご寄附をいただきました。ありがとうございました。

皆様 ありがとうございました。後援会費、ご寄付は大切に活用させていただきます。

新年度

*** 後援会へのご入会・ご更新をお願いいたします ***

年会費 1口 個人…2000円 団体…10000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか、下記の口座にお振込みください。

郵便口座 00160-0-39163

口座名義: 社会福祉法人おおぞら会後援会

ショートステイさくら からのお知らせ

ショートステイさくらでは、今年度より職員の欠員により通常のお受入れができない状況にあります。ご利用されている皆様、またショートステイをご利用されたいという皆様のご要望にお応えしきれず、大変申し訳ございません。しばらくは、現状できる範囲での運営を続けてまいります。皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

information

社会福祉法人おおぞら会

職員募集

社会福祉法人おおぞら会では、私たちと一緒に事業を支えてくださる職員を募集しています。採用条件、労働条件等の詳細については、おおぞら会本部へ直接お問い合わせいただくか、またはハローワークの情報もしくは東京都福祉人材センターのホームページ「福祉のお仕事」www.fukushi-work.jp/で検索してご確認ください。

障害のある人たち、
高齢者の地域生活を
支援するお仕事です



正規職員
契約職員(常勤)
パート職員



法人のこと、施設のこと…わからなくて迷っている方は、まずは見学からどうぞ。

おおぞら会本部 0422-30-5571 (中野) まで

社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|------------------------------------|---------------|------------------|
| ・ アクティビティセンターはばたけ (生活介護事業) | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 (就労移行事業・就労継続B型) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野さきの家 (小規模多機能型居宅介護事業) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは (移動支援[居宅介護]事業) | 武蔵野市八幡町 1-6-1 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids (放課後等デイサービス) | 武蔵野市八幡町 1-6-1 | tel 0422-36-5151 |
| ・ ショートステイさくら (短期入所事業) | 三鷹市井の頭 4-22-6 | tel 0422-32-3234 |
| ・ つながなかまの家 (共同生活介護) | | |

今年度、社会福祉法人おおぞら会は法人設立20周年を迎える。と同時に、私も法人職員20年目になる。実際にはその1年前に前身の無認可施設「はばたけ共同作業所」の職員だったので21年目(年齢はご想像にお任せします!)なのだが、今、法人の今後を考える立場になり、当時の施設長、職員をはじめ、運営委員会等で尽力された方々はどんな苦労、覚悟、責任を背負いながらやっていたのだろうとあらためてその大きさを感ずる。20年の間にはたくさんの人がおおぞら会に携わり、私もその人たちと喜びや達成感、葛藤や苦しい選択…いろいろな感情と一緒に味わってきた。今は違うところから応援してくださる方々もいれば疎遠になってしまった方もいる。一緒に頑張ってきた仲間の職員のうち2人が志半ばで空に昇ってしまった。その中で今があり、これからある。昔話をしても今の人にはつまらないかな…とも思うが、20年を観てきた自分が今ここにいる意味、それを噛みしめながら、未来につなげられるよう20周年のこの1年を大切に過ごしていきたいと思う。(いりくらあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 [頒価 50円]

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者: 入倉暁子